馬耳東風

私は中学，高校までは当時ヒットした歌謡曲の大半は歌えたが，大学生の頃から好きになれない曲が増え始め，ビートルズでさえデビュー当時には全く受け付けなかった．私より5歳くらい年下の人たちには熱狂的に受け入れられている音楽が，自分には全く楽しめないというのは一抹のさびしさを感じる驚きであったが，その驚きはなぜこんなうるさい音楽がいいのだろうかという疑問でもあった．しかし3歳年上の姉がビートルズはいいと言うのを聞いて，自分には音楽を楽しむ才能に恵まれていないのかなと感じ，ずっとそう思いこんでいた．何しろ私がビートルズの音楽が楽しめるようになったのはそれから20年くらい経ってからのことであったから．

ところがある時，作家の堀 辰雄の奥様が何かに書かれていた文章を読んで，自分は音楽を楽しむ才能に恵まれていないのではなくて，人よりも音楽的老化が早いだけだと思うようになったのである．戦前，軽井沢に住んでいた堀 辰雄があるパーティにいったところ，外国人の若い男女が，「およそこの世の音楽とも思われぬ騒がしい曲をかけて踊り始めた」と奥様への手紙に書かれたそうで，その曲というのがタンゴだったというのである．日本にタンゴ音楽（アルゼンチン・タンゴと思われる）が初めて入って来た昭和初期には，芸術的感性に優れた堀 辰雄でもすぐそれを受け入れることはできず，「この世の音楽とは思われぬ騒がしい曲」としか感じられなかったということは誠に興味深い．堀 辰雄と同列視するつもりはさらさらないが，最近わが家でも似たようなことがあった．学生の頃，アル・カイオラ楽団というエレキギターを中心とした楽団があり，うるさい演奏ではあったが私は結構好きだった．過日そのCDを見つけたので買ってきて聞いていたら，家内が随分静かな曲ねと言ったのである．初めて聞いた家内には静かな演奏と聞こえたのであろうが，私は昔の騒がしい演奏という先入観で聞いていたからか，とても静かとは感じられなかったのだが．

歳をとるにつれ新しいことがなかなか受け入れられないと言うのは音楽に限ったことではないらしい．「失敗学」の提唱者である畑村洋太郎氏によると，新しいこと（わざわざ「たとえば外国語を勉強することなど」という注釈がついていた）に挑戦できる能力は25歳をピークとして，以後5年ごとに半減するそうである．数字で示されるととても恐ろしい．何となく能力の衰えは感じていても自分では数値化できないから…．何しろ50歳になると2の5乗分の1だから25歳時の1/32になるというのだ．25歳の時1時間で修得できた事柄が50歳では32時間かかるとは．しかしもっと絶望的なことを言う人がいた．「クラシックの聴き方」という本の著者である音楽評論家の宇野功芳氏は，NHKの「ラジオ深夜便」のインタビューの中で，クラシック音楽は10代に聴いて好きになっておかないと一生理解できないとノタモウたのである．その心は，20歳以降いくら聴いても頭で聴くだけで感性では聴けないというのである．そう言われても私には感性で聴くということ自体が理解できないのであるが…．お二方ともご高齢である．年寄りが年寄りいじめてどうすると言いたいのだが，おそらく彼らは若い人への励ましのメッセージを意図しておられるのであろう．

（久）